

大学図書館問題研究会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

京都橘女子大学図書館 田北十生気付

(Tel) 075-574-4118

(Fax) 075-574-4124

大図研京都支部例会に参加を！

(忘年会と忘年会)

恒例となりました大図研の京都支部例会も目前となりました。

今回は「大学図書館と図書館の自由」について、日図協の自由委員会メンバーである若井勉氏（立命大）に最近の図書館の自由をめぐるさまざまな動きについて、お話していただくと思っております。

最近の「少年犯罪報道」のあり方やメディアの対応は資料提供を使命とする図書館に新たな問題を投げかけています。またメディアの多様化と表現の自由に関わっても、多くの問題が含まれているのではないのでしょうか？

今回の例会では最近の事例を数多く紹介していただくとともに、個々の大学の事例についても交流したいと考えております。

むずかしそうなテーマではありますが、気楽な気分で参加してみませんか。お待ちしております。（会場地図は、次ページ参照）

日時：11月27日（土） 午後2:00～5:00

会場：日本イタリア京都会館2F会議室

内容：「大学図書館と図書館の自由」一近時の事例紹介とその問題点一

講師：若井勉氏（立命館大学）

参加費：無料!!!!!!!

*** 忘年会参加のお誘い!!**

tyotto早いようですが例会
終了後会場近くで行います。

こちらは有料!! (笑)

金額は盛り上がり次第
従って、遠慮なく積極的に参加を
お願いします。



目次	大図研京都支部例会のご案内 1 頁
	新企画等の募集について 2 頁
	京都支部支部例会会場地図 2 頁
	第3回京都支部委員会報告 3 頁
	数珠つなぎ（第44回） 4 頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで
編集気付（kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp）田北まで

新企画等の募集について

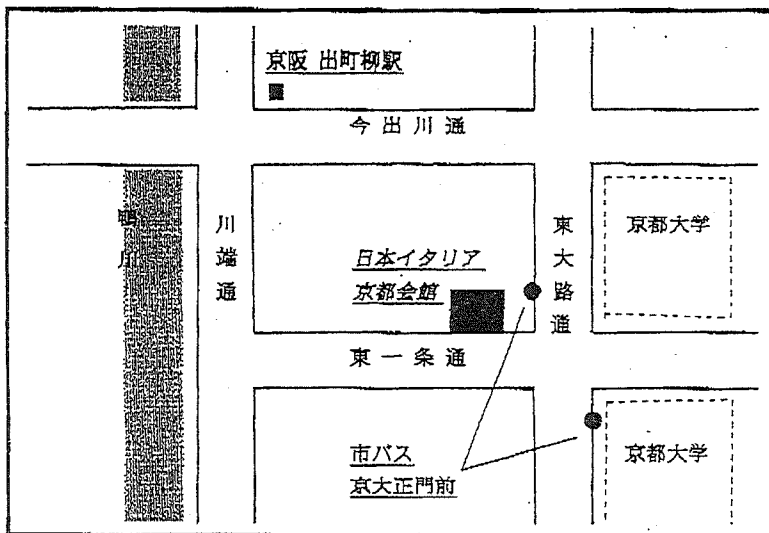
- (1) 連載小説「リュウ」が完結しました。長い間ご愛読ありがとうございます。完結を機に、みなさまからの感想の投稿をお待ちしています。
- (2) 「私のインターネット活用術」をシリーズ物として連載していく予定です。「数珠つなぎ」とは趣の異なった連載になることを期待しています。皆さんからの積極的な投稿をお願いします。
- (3) インターネットで大図研京都支部のホームページを立ち上げたいと考えています。
つきましては、みなさまからのご要望・ご意見をお寄せ下さい。
みんなで作るホームページを目指しています。

また、ご自分のホームページをお持ちの会員の皆さんは、編集部までお知らせ下さい。支部報に掲載したいと思います。

- (3) 応募・投稿は、出来るだけメールで下記アドレスへ送信して下さい。
京都橘女子大学気付 田北十生 宛
kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp
F A X 075-574-4124 (京都橘女子大学図書館)

・会の内外を問わずご参加を!!

●大図研京都支部例会会場地図(日本イタリア京都會館) ← 雨傘



市バス 31、65、201、206「京大正門前」下車、徒歩1分
京阪電鉄「出町柳駅」下車、徒歩15分

第3回京都支部委員会報告

1999年10月26日(火) 同志社大学クローバーハウス (午後7時~9時)
 出席: 篠原、呑海、田北、井上、大館、大綱 (オブザーバー)

【報告事項】

1. 財政情報 ・1999年度会費納入者 70名

【審議事項】

1. 全国大会について

- ・下記の事項についてクレオテック(株)に見積りを依頼。
- ・日時: 2000年8月26日(土)~28日(月)
- 第1日目-全体会、基調講演(立命館大学国際平和ミュージアム)
9:00-17:00
- 第2日目-分科会 (立命館大学国際平和ミュージアム)
9:00-17:00
- 第3日目-分科会 OR 全体会 (立命館大学末川記念会館)
9:00-12:00
- ・会場費 約22万円 懇親会費 約87万円 これに営業管理費も含め総合計約120万円
- 一最終的にはもっと費用を下げるができる見込み。
- ・会場: 立命館大学国際平和ミュージアム、立命館大学末川記念会館
- 一参加者数を最大150名で想定。
- ・依頼事項
 - 1) 全体会、分科会の会場設定 ・会場設営、看板、録音、音響など
 - 2) 第1日目の懇親会企画 ・大学近辺のホテルにて
8月26日 18:30-20:30 パストラル京都
 - 3) 第1日目、第2日目の昼食 ・弁当を用意してもらう
 - 4) 宿泊について
・一般会員参加者用として、新都ホテル、アークホテル、三井ガーデンホテル、ニュー京都ホテル、それぞれ30室確保。(シングルとツインをとりませ)
 - (・常任委員、全国委員、現地事務局用として会場近辺のパストラル京都に30名分を別に確保する。)
- ・大会実行委員会を年内に発足させる。←ご協力!! 各エリアで会場相互の交流も!!

2. 今年度の活動について

1) 第1回例会

- ・日時: 11月27日(土) 14:00~17:00
- ・会場: 日本イタリア京都会館2F会議室(30~40名収容可能)
- ・内容: 「大学図書館と図書館の自由」近時の事例紹介とその問題点
- ・講師: 若井勉氏
- ・案内: 支部報10月号、ゆりかもめ
- ・終了後の忘年会会場 京大近辺で17:30から

2) 近畿4支部合同例会

- ・日時: 1月22日(土) 14:00~17:00
- ・会場: ウィングス京都(予約は2ヶ月前から)
- ・講演者: 第1候補 ジュンク堂書店関係者 (第2候補 立命館大学教員)

3. 支部報について

- 1) 11月号について /数珠つなぎ(京大から)
- 2) 12月について /数珠つなぎ

4. 支部報復刻版の発行について

見積 (K印刷)	数量	単価	金額
本文 1200 頁 上製本	500 部	5,200	2,600,000
本文 1200 頁 上製本	300 部	7,570	2,271,000
本文 1200 頁 並製本	500 部	4,680	2,340,000
本文 1200 頁 並製本	300 部	7,190	2,157,000

金額をもっと抑えるために部数を減らすとともに、印刷・製本の仕方も工夫する。

5. 京都支部ホームページについて

- ・So-netに決定。←呑海さんのご協力!!
- ・支払い用の個人名義口座をつくる必要あり、名義人になってもらえる人に依頼する。

7. 次回支部委員会予定 12月7日(火)

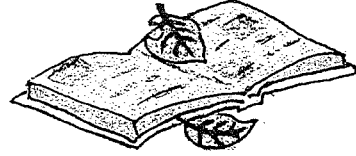
好評の連載コーナー!!

● 京都大学地球物理図書室

とみた ふさえ

● 大図研京都数珠つなぎ 第44回

● 富田房江 さん

こんな図書室ならでは

私は地球物理図書室に働いて30余年、退職を前にして去り難い職場に思えるこの頃である。地下書庫、複写室を別室にもち、多くの遠隔地を持つ専門図書室で、仕事はモップかけから、NCへの入力まですべて1人です。

年度始めには図書室予算原案を作り、それを講座代表7人からなる図書委員会で案にして教室会議で認めてもらう。そのためには細かい資料を提出する。外国雑誌の値上がりについての状況や、製本費を省略できない理由などの説明も求められる。

1つの仕事に取り掛かるとその仕事を終了するまで続けられたらいいのだが、途中、カウンターや、電話や、コピー機の故障やで中断は止むを得ないのが1人職場の宿命である。この図書室も何度か閉室の危機にさらされた。その度に図書室運営について図書委員の先生方と議論をしてきた。予算が切迫してくるとすぐ図書室をどうするかとの問題になり、常に教室運営のクッション的存在であったように思う。

その度に教室の運営者であり利用者である先生方に図書室評価を仰ぐことになる。いずれの時もいざとなれば図書職員は孤独だとよく思った。しかし、応援者はいる。物言わぬ利用者と他教室の同じような図書職員の仲間達である。研究室や教室の移転と共に図書室の資料を2分したり、合併したりの問題が起こる。

図書室の移転は本を運び終わったら仕事は終了と見なされるが、孤独に延々と事後処理に励むことになる。書庫移転でアルバイトを頼んだ学生はサービスを提供する側の苦勞がよくわかったと言ってくれた。

このように常に利用者と接触しながらの職場では毎日の交流があり、新しい発見もある。端末機の前や書庫で呆然としている利用者に声をかけたりする。文献が見つかる静かに歓声があがる。「さーすが」といわれて喜びを共にする。しかし、「ありません」の返事の際は十分に検索作業ができたかいつまでも心に残る。

利用者は自分の書いた論文や観測についてよく話をしてくれる。地面の中のマンツルの様子や、物理学的に見える空気の現象や日本の景色のすばらしさの要因などなど。生き生きと憧れにも似た研究への情熱が伝わって来て教育と研究の近くで働いていることを実感させられる。

時には学生にCDを借りたり、人生相談を受けたりする。そして留学生の利用も多い。何よりも異文化にふれた実感をもてたことは、こんな図書室ならではと思う。

日本語についてもよく聞かれ、論文の部分訳も辞書を引きながら、理学的でない訳をしたこともあった。京大の朱い実保育園へも案内した。一緒に保育所探しや書類書きなどした。日本での本1冊分が、インドネシアでは1ヶ月分の生活費だと聞かされ、安くなるように書店に交渉もした。また、勉強していて閉室時間がくると「お疲れさまでした」の挨拶。私たちが忘れていたあたたかいものを思い出させてくれたギリシャ女性にも出会った。

教育と研究の最前線の現場でいろいろな利用者とかかわりあい、努力すればするほど利用者からの反応が直に感じられる職場で働くことができたことをうれしく思う。